

レジデント・サポーター体験談

() 内は採用年度を表しています。

◎レジデント・サポーターに応募したきっかけ

RIR 椎名町

NEW

一番の理由としては、自分自身が留学し寮生活を経験したことにあります。留学生活中に、現地の学生にたくさん助けられ、帰国後に留学でお世話になった恩返しのつもりで海外から日本へ来る留学生のために留学経験を活かさないかと考えました。また語学力もさらにブラッシュアップしたいと思いました。(2018)

立教大学に留学してから、ずっと一人暮らしをしており東京の生活には慣れていたため、とりわけ日本の暮らしには慣れていないであろう留学生の生活サポートの仕事をしたいと考えていました。さらに、寮は池袋キャンパスへのアクセスも良く通学時間も短縮するであろうし、またミールプランも付随していたため、私の食生活も豊かになると考え応募を決意しました。(2017)

もともと国際交流や異文化に興味があり、この機会により深く留学生らと関わってみたいと思ったのがきっかけです。もともと一人暮らしだったので、寮費の免除という点も理由の一つでした。中高校時代に自分が初めて海外生活を経験した際に、周りの人々からのサポートに助けられたことがあったので、自分も同じように異国に住む人たちの力になりたい、サポートしたいという気持ちがありました。(2016)

RUID 志木

①学部時代のフランスへの交換留学の際に、国際寮での暮らしがとても好きだった。各国から集まった学生と、寝食を共にして自分の視野を広げる事が出来、そういった経験がまたできたらと思っていた。また、業務自体や求められる事が今後グローバルな環境で活躍していきたいと思う自分のめざす姿にも合致していたから。②大学5年目、一年制の国際経営学修士プログラムに取り組んでいたため、授業だけでなく私生活もよりグローバルな環境に身を置く事で国際理解・英語力の向上等の面でより早い学習効果があると思った。(2016)

国際交流に興味があり英語で話す機会を作りたかった。なぜなら幼少期に米国在住経験があり、様々なバックグラウンドを持つ人が集まる環境に面白みを感じ、語学力の維持も図りたかった。また、ボランティアに興味があった。サポートを行う上で英語を活用したら、より自分の語学力に磨きをかけられると感じた。またより学校近くに住みたかった。実家からの通学に往復3時間かかってしまい対処したかった。(2016)

自分が大学2年の時に留学して寮に住んでいたため、次は日本に来る留学生を受け入れサポートする側になりたいと思ったからです。また、日本では英語を使う機会がほとんどないので、せっかく得た英語のスキルを生かしたいと思いました。(2017)

英語をもともとしっかりと勉強したかったこと、実家が学校から一時間半ほどかかるころにあったために、もっと近いところから通えること、親元を離れて独り暮らしをしてみたいことは、応募した大きなきっかけになりました。英語への学問的探究心は相当大きかったのですが、おなじくらい大きかったのは、自らの過去の大学生活を振り返った際に、そこにはいつも人種、国、言語を「日本人、日本、日本語」という境界線を越

えた日常があったことでした。留学生はもちろん、英語を話す日本人との交流は私にとっての当たり前でしたし、同時にかけがえのない大学生活の思い出でした。アメリカから来た昔の留学生の良い友に、RS を推奨されました。それから留学生と一緒に住み、彼らともっとも近い距離で時間を共有できる立場に身を置けることは、夢のまた夢でした。(2017)

【新しい経験がしたかった】

英語を使って何かすることは社会人になってからでもできますが、「留学生との寮生活」というのは大学生の今しかできない経験だと考えました。私にとっては立教での最後の1年だったので、少しでも興味のあることは何でも応募してみようというスタンスで応募しました。

【学部卒業・院進学に伴い新たな友人を作りたかった】

友人の殆どが就職する中で自分は大学院進学を選んだため、大学で友人を新たに作りたと思っていました。ゼミや SA など経営学部のコミュニティだけで4年間過ごしてしまっていたので、そこから出る良い機会だと考えました。

【自宅が遠方だった】

自宅から大学まで2時間ほどかかるにも関わらず、実家から毎日通っていました。RSなら食費・光熱費の負担のみで居住が可能なので魅力的でした。(2018)

RUID 朝霞台

募集があった当時、私は GLP のプロジェクトが終わって次のステップをどうするか、何にチャレンジするかを考えていた時でした。留学も考えていましたが、経済的な事情もあってすぐには実現できない状況でした。ただ、周囲の学生も海外にフィールドを移したりしている中で自分も止まっていられないとは思っていた中で、留学生の生活を支えながら寮で暮らせる RS の仕事を知って「これだ！」となり応募しました。(2016)

以前に派遣留学生として留学をしていた経験から、国際的な環境に身を置くことを続けたいと理由がありました。さらに、卒業後の進路に関して、留学生から現地の大学の特徴を聞きたい、多くの人からの意見を聞きたいといった理由から RS に応募することを決めました。(2016)

前任の RUID 朝霞台のレジデント・サポーターが私のゼミの先輩だったことがレジデント・サポーターの存在を知ったきっかけです。先輩から仕事内容や寮生活の様子を聞き、魅力を感じました。以前から寮生活に興味を持っていたことと、留学生と交流したいという思いもあり、国際寮での生活はこれらを実現できると感じレジデント・サポーターに応募しました。(2017)

①もともと RUID 朝霞台に一般学生として1年間住んでいて楽しかったから。上京してきて初めての寮生活で、思っていたよりずっとアットホームで楽しい環境だったので、これからも RUID 朝霞台に住み続けたい、せっかくの国際交流寮なのでより深く留学生とかかわっていきたいと思うようになりました。

②自分の留学経験を活かしたかったから。高校時代約1年間オーストラリアに留学をし、そこでの経験は日本に来る留学生の気持ちを理解し、生活のサポートをするのに絶対に役に立つと思いました。留学生のため、寮の活性化のため、そして自分の楽しみと勉強のためにも良い機会だと感じました。(2017)

立教グローバルハウス

自分がしてもらった恩返しをしたかったから。オーストラリアに一年休学留学した際、同じような寮に滞在した。英語もままならず、困惑していた私に、現地のサポーターの友人が声をかけ続けてくれた。この経験が私の留学を成功できた一つの要素だと考えた。自分の経験を踏まえ、立教に留学してくる留学生に自分がしてもらった分の恩返しをしたかった。(2017)

留学後も英語を使うような環境にいたいと考えたためです。また、留学中 RS のような立場の学生に寮でお世話になり、今度は私が何かできたらなと思ったことも大きい理由です。(2017)

自分の英語力を高める一方でグローバルな交流を通して自分の視野を広げたいと思い、レジデント・サポーターに応募しました。グローバルハウスは他の寮に比べて留学生の数が多いため、より多国籍の留学生と交流ができるメリットがあります。そのメリットを積極的に使えばより活発な交流ができ、英会話能力を高めることができると思います。実際に RS 活動を通して、異なるバックグラウンドを持つ留学生たちと交流を行うことで、私と異なる価値観や考え方を持つ人たちが多くことに気づき、多様性を認めることができる柔軟性を身につけることができました。(2017)

応募した理由が主に二つあります。一つ目は国際交流がしたかったためです。小さいころから違う国の文化や言語など、異文化コミュニケーション学部を選んだほど交流に興味がありました。交換留学生がたくさん住んでいる寮では日常的に会えて、仲良くなれて、お互いの文化や言語などについて知れるから応募した理由のひとつです。二つ目は、自分は留学生として、初めて日本にきた時に日本の生活でいろいろと日常なことが大変でしたが、同じシェアハウスに住んでいた人々と仲良くなれてサポートをしてくれたおかげで日本の留学が最高の思い出になりました。私も同じく、日本に留学してきた人の不安や心配が少しでも消えるように、彼らをサポートしたいと思って応募したのはもうひとつの理由です。(2018)

◎担当した寮はどのような雰囲気でしたか？

RIR 椎名町

NEW

一言で言うと平和です。寮則は特別厳しい訳ではないのですが、寮生はみんな常識的なルールやマナーを守り過ぎていました。勉強熱心で遊ぶ時はよく遊んで、真面目で優しい子が多い印象です。設備はとても整っていて、新しく、ご飯も美味しいです。何も不自由はありませんでした。(2018)

椎名町寮は立教大学の寮の中でも最も規模が小さく、こじんまりとした雰囲気でした。椎名町自体は池袋からも少し離れており非常に静かな住宅街で暮らしやすいと思います。(2017)

他の寮に比べると規模が小さいため、全体的にアットホームな雰囲気があると思います。国際フロアには18人ほどの留学生で住んでおり、留学生同士は皆、距離が近く仲が良いです。夜は食堂や廊下でおしゃべりしたり、休日は皆で出かけたりとちょっとした家族のような雰囲気もありました。(2016)

立教グローバルハウス

アットホームな雰囲気。共用スペースが多く、顔を合わせる時間が長かった。料理や髪を乾かしているときに声をかけあえる雰囲気があった。(2017)

キッチン、トイレ、シャワーなど共用部分が大きいいため顔を合わせる機会も多く、早くみんなが仲良くなるためとても明るい雰囲気の家でした。留学生の割合が高いですが、寮全体の人数は70人～80人と他の寮と比べて少ないので、みんながみんなの顔を知っているというのもとても良かったなあと思います。(2017)

全体としてフレンドリーな雰囲気でした。そのため、活発な交流が期待できます。特に、キッチンやダイニングが共用スペースであるため、夕食の時間帯には留学生と会話を交わしながら一緒に料理をすることもできます。しかし、日常生活におけるトラブルも発生します。共用キッチンの冷蔵庫の使い方に関するトラブルや騒音問題などの細かいトラブルが連発しますが、それらの問題を解決していくことで自分の問題解決力を高めることもできると思います。(2017)

グローバルハウスはとても賑やかな雰囲気でした。部屋にキッチンなどないため、共有スペースの食堂や勉強室などに皆が集まって、一緒に料理をしたり、食べたり、ゲームをしたりしています。パーティをしている人もいれば参加できたし、とにかく楽しい空間でした。平日や試験期間中は食堂に集まって一緒に課題をしている方も多かったのも、楽しいだけではなく、ちゃんと勉強の面でも生かれます！(2018)

RUID 志木

立地、寮内設備について・志木駅より徒歩約5分。・周囲には飲食店・スーパーが多くて便利。通日も比較的静か。・寮は比較的建物も新しいため、きれいな設備。・オートロックや監視カメラ等もあり、セキュリティも万全。寮の雰囲気について・・ミールプランを取っている学生同士が食堂で交流する事が多い。・留学生同士は留学生フロアの廊下で交流していることも多い。・日本人学生と外国人学生の交流はそこまで多くはない。日本人学生間でも、学年同士での交流が主なので、寮としてコミュニティ意識が強い訳ではないが、最近イベントが増えてきたので交流も増えてきた印象。(2017)

アットホームな雰囲気。基本留学生同士はだれでも仲良しな印象。お揃いのパーカーも皆が着ているので、それぞれにとって帰るべき安心できる家のようなところです。(2017)

英語、日本語を話す人で完全に分かれていました。私も多く時間を過ごした前者の人の中では、大きな集団で家族のような、とても落ち着いた雰囲気がありました。皆が寮に戻ってきたい、寮の食堂なりに行けば誰かがそこにいる、そんな文化、雰囲気がありました。(2017)

【居住者全体】

在任期間全体を通して、日本人学生と留学生はあまり交流がなかったです。日本人同士も全体として交流している様子はあまりありませんでした。

【留学生内】

- ・1学期目(春学期)：留学生はみんなと一緒に行動する雰囲気が強かったです。おそらく前任のRSが作ってくれた雰囲気を、継続の留学生が引き継ごうとしてくれたからだと思います。
- ・2学期目(秋学期)：小さなグループがいくつかあり、全体で何かすることは殆どありませんでした。個人的には、前任のRS時代を知る留学生が全員帰国し、全員で何かする雰囲気が薄れたことが原因だと考えており、もっとまとめられたら良かったと悔いが残っています。(2018)

RUID 朝霞台

寮生みんなが分け隔てなく仲良くしている雰囲気です。具体的には日本人学生も留学生も毎日、食堂を中心に交流しています。レジデントアシスタントも寮内の交流を活性化するために、イベントを企画したりして楽しんでいます。ただ、食堂とロビー以外では交流を行うスペースがなかったので、そこ以外では外出してカラオケに行ったり、ご飯に行ったりしていました。(2016)

共立メンテナンスに雇用されている RA が英語に堪能なので、積極的に留学生との交流を図っています。さらに日本人留学生と留学生の交流を図るためのイベントを盛んに企画しています。そのため留学生と RA、日本人学生と留学生との全体の関係はすでに深められていると言えます。RA と連携を組むことで留学生や日本人学生との関係を円滑に築くことができると言えます。国際交流に積極的な学生が多いため日本人学生が積極的に留学生に話しかけたりしている姿が見られ非常に良い雰囲気だと言えます。(2016)

とてもアットホームな雰囲気があり、留学生も日本人学生も分け隔てなく交流していました。私自身は 2017 年の 3 月から入寮したため、RUID 朝霞台でお世話になったのは 1 年間だけでした。最初は不安が気持ちもありましたが、入寮当初から多くの学生が話しかけてくれたことで、すぐに寮生活に馴染むことができました。レジデント・アシスタント(RA)とレジデント・サポーターの関係性も良く、様々なイベントの企画・運営を協力して行いました。みんなが仲良く、馴染みやすい雰囲気があるのが RUID 朝霞台の一番の魅力だと思っています。(2017)

RUID 朝霞台は、とにかくアットホームで先輩・後輩に関係なくとても仲の良い、楽しい人たちが集まっているところです。共有スペースである食堂に来れば、ほぼ必ず誰かがいて、おしゃべりをしたり、TV を見たり、UNO やボードゲームをしたり、退屈することがありません。自分らしさを出して他の寮生と家族のように過ごすことができる場所だと思います。一緒に過ごす時間が長い分、本当に強い絆ができる環境です。また、利便性も高く、寮を出たら駅はすぐそこ、スーパーやコンビニもとても近くて生活に困ることはほとんどありません。ファミレスや居酒屋もたくさんあるので、休みの日やお昼も寮の友達とすぐご飯を食べに行くことができます。(2017)

◎寮内の交流を活発にするためにどのような工夫を行いましたか。

RIR 椎名町

NEW

自分自身が、留学生にとっても日本人にとっても、話しかけやすい人物にいるということを常に心がけていました。食事の時は、知っている寮生がいれば一緒に食事をしたり、入寮すぐのウェルカムパーティーなど留学生と大勢で出かける時は日本人学生に連絡して声をかけていました。季節のイベントごとに掲示も作ったりしました。(2018)

留学生が入寮した始めのうちから、お互いを知る機会をつくるのが交流を促進するうえで何よりも重要だと考えていました。ゆえに、全員が入寮し終わったらすぐに飲み会や食事などを誘いました。学期が始まっても夜や週末などは一緒に遊んだり、また唯一の共有スペースである廊下に集まり、会話を楽しんだり、飲食をともにしたりすることも交流を深める良い機会だったと思います。(2017)

寮内の日本人学生らがあまり交流に積極的ではなかったことが、自分も課題として認識していたので、食堂で日本人学生が留学生らに混じれるよう声をかけたりしていました。寮内ではクリスマスパーティーを企画し、留学生らの手伝いを得ながら、交流の機会を設けました。他には、入寮後、新入寮生と前学期から継続の留学生を集めて夕食に出かけるなどし、顔合わせの機会を作りました。早い時期から打ち解けていたように思います。(2016)

立教グローバルハウス

イベント（歓送迎会、クリスマス会など）の企画運営。寮長とRSとでミーティングを重ねて実行した。手作りの料理をふるまったり、琴の演奏者を呼んでの企画を行った。(2017)

ダイニングなどで寮生が集まる機会や場所も多かったので、特に大きなことはしていませんでした。(2017)

とにかく人間関係を築こうとしました。初対面からいきなり交流をしようとしても難しいと思い、まず人間対人間としての関係を深めようと思いました。一緒にカフェに行って勉強をしたり、食事をしながら会話を交わすなど、友達感覚で仲良くなろうとしました。また、留学生が日常生活で経験する問題に対して積極的に立ち向かおうと意識しました。(2017)

まずは顔を出すことが大事です。食堂にいれば皆さんと交流するチャンスが多いです。そして自分から話しかけることです。特に入寮したばかりの方は皆さんお互いを知らないなので、皆さんが友達を作るのに精一杯な時こそ積極的に顔を出して仲良くなれば、あとの付き合いも自然にできました。(2018)

RUID 志木

自分と留学生との交流は自然とできてくるので、自分と日本人寮生との交流を増やす事も心掛けた。そうする事でイベント、食堂、エレベーター等のささいな瞬間でも一緒になった時に双方の間に入っていい感じに交流を活発にする事ができたし、自分も寮内に友達沢山できて楽しかった。それだけでなく色々な事が交流の活発に繋がると思った。日本や東京での遊びや楽しい事を聞かれた時に気の利いた答えができると、寮内の留学生同士が楽しい時間を過ごすきっかけになるし「日本での留学生活を楽しんでほしい」という気持ちを普段からあると良いと思う。学部時代の交換留学がとても楽しかったので、せっかく今日本に交換留学をしている彼らにもそうあってほしい思いが個人的には強かった。(2016)

食堂や寮内のイベントのときには日本人学生と留学生が交流しやすい場所でもあるため、その中で間に立って会話をし、両者のつながりを作るように意識していた。小さなイベントでも企画を積極的に行った。寮生間のLINEグループを作成し、日々のやりとりなど、日本人学生と留学生の交流の場を増やせるようにした。(2017)

日本に来たばかりで不安な留学生に、特に最初に色々な企画をしました。初日に全員でアイスブレイクをこめてカラオケにいったり、ご飯を一緒に食べたり飲みに行ったりしました。日本にきて日本語を勉強しにきている留学生はある程度いるものの、留学生同士の公用語は完全に英語100%でした。そのため、意識のある学生に向けて、留学生と交友する興味をもつ日本人を混ぜて、食堂で日本語を話す時間を設けることで、日本語学習を学校外でも促しました。(2017)

出だしが重要。入寮はじめは、とにかく入寮した留学生をなるべく多く巻き込むようにイベントを開催しました。チェックインの段階で、Wi-Fi も何もない中で、アナログな形ですが、全員に後で食事を一緒にとろうと勧誘をしました。食堂で何気なく全員で食事をとる、一緒にカラオケに行く、ピクニック等に連れていく、廊下に集まって迷惑にならぬ程度に談笑するなど。留学生それぞれが知り合いになるまでの出だし、そしてお互いが自然とコミュニケーションをとりあう文化が根付くまでは、意図的にいろんなイベントを練りだしました。(2017)

【アクティビティ等に関して】

留学生が入寮した直後は言葉に頼らずとも皆が一緒に楽しめる企画を用意するようにはしていました。留学生同士の交流において、障壁となりやすいのは英語レベルの差であると考えたためです。例えば、寮内なら UNO や黒ひげゲーム、外出ならスポッチャなどです。また、特別な日本文化の体験(サムライ、忍者…)よりも、普段日本の大学生がしていることや、行く場所を紹介するよう心がけました。例えば、ちばチャンでの飲み会、少人数ならルミネで買い物などです。

【普段の接し方について】

どの留学生ともなるべく平等に関わるようにはしていました。特定の人とだけ仲良い印象を持たれてしまうと、それ以外の人気が使ったり、話しかけにくくなってしまうと考えたためです。食堂で留学生がいくつかのグループに分かれている時には、その全てに顔を出すようにはしていました。(2018)

RUID 朝霞台

交流がまだ活発でなかったときは、自分から個々の留学生および日本人学生と仲良くすることを意識していました。そして個別に仲良くなってから個々に対し食堂で話しているときに個々を紹介して、つながりを作ることを行っていました。そこで会話を行えば、あとは、自然と仲良くなってくれるので、自分は見守りながら、自然な感じで輪の中にいるような感じで交流していました。ですので、最初にどれだけ個々と信頼関係を持てるかが大切だと思います。入寮の時や市役所手続きの時間にいろいろと話して打ち解けることがとても大切だと思います。(2016)

留学生同士の交流を促進するためにはダイニングルームを活用するようにはしました。個人的に友人の部屋に行くことも可能ではあるけれども、あえてダイニングルームで積極的に活動を行うことで常に誰かがダイニングルームにいるという感覚を持ってもらうことを狙いとしていました。日本人学生に関しては RA との連携をとることでイベントの予算を共立側から出してもらうことも可能なので RA と連絡を持つことで日本人学生と留学生の関係を生み出す点は補えると考えます。(2016)

留学生の入寮当初の時期にたくさん交流することを意識しました。最初はまだ友達もいなく、不安な気持ちの留学生がほとんどだと思うので、お互いが仲良くなるきっかけをつくりました。具体的には入寮してから学校が始まるまでは、積極的に食堂に来て留学生同士交流するように促したり、ウェルカムパーティーを行うことで寮内の結束を高めるようにしました。その後、学校生活が始まると同じ授業を受けている友達や、サークルに入って交友関係が広がる留学生が多くいます。そのため入寮当初と比較すると、食堂で話をしたり、一緒に食事をする時間は少しずつ減っていきました。しかし、最初に暇な時は食堂に降りてきてみんなと交流する意識を持ってもらうことで、忙しくなっても食堂で交流することができました。(2017)

基本的にいつもシャイなのは日本人なので、仲の良い日本人学生によく寮の留学生の話をしたり、食堂と一緒に食事をするように誘ったり、留学生に対しても同様に対応してなんとか一緒に過ごす時間を作れるようにしていました。特に重要になるのは、新しい留学生の入寮時期なので、その時期になるべくみんなに食堂に降りてきてもらうように働きかけ、ウェルカムパーティーも交流が深まるように企画を考えることが重要だと思います。(2017)

◎レジデント・サポーターをしていた苦労した出来事を教えてください。またその出来事に対してどのように対処しましたか？

RIR 椎名町

NEW

一番は自分の時間、生活との両立です。RSは責任というものが付きますといいますが、特に就職活動をしている時は留学生からの誘いを断ってしまったり、定期的なRSの業務まで時間をなかなか作れず、怠ってしまったこともありました。忙しい時期だということを留学生はじめ国際センターの方が理解してくれていたというのも大きかったのですが、日本語と英語が両方できる留学生が私の代わりに手伝ってくれたり、国際交流サークルの日本人の知り合いなど身近に頼れる仲間がいたため、困った時には彼らにしっかり甘えてサポートしてもらっていました。はっきりわからないことや、自分の力では解決できないことは、国際センターや管理会社、寮長夫婦、時には留学生に相談して、抱え込まずに周り協力して問題を1つ1つ対処することが大事だと思います。(2018)

椎名町のレジデント・サポーターになってから私の社会性や生活のリズム、食生活が大きく改善されたため、良い思い出が多く、苦労した出来事がすぐに思い出せるほど強い印象としては私の心の中には残っていません。それでもいって言うなら、真夜中に救急外来に行きたいと起こされたときは、まともに寝られず、その刹那は私の生活に支障をきたしたため、とても辛かった記憶があります。(2017)

信頼関係をきちんと築くことが一番苦労したことです。問題や悩みがあっても頼られなかったり、相手のニーズや求めていることに答えられなかったりと、サポーターとしてきちんと手助けできているのか不安になることがありました。コミュニケーションをこまめに取り続け、誠実に向き合うことで、徐々に信頼関係も築くことができましたと感じています。また寮長と留学生の板挟みになるなど、サポーターとしての立場に悩むこともありましたが、そこでも双方ときちんとコミュニケーションを取り、理解してもらうことで解決できたと思います。(2016)

立教グローバルハウス

学期の始まりと終わりの入退寮が大変だった。生活面のサポートにプラスして市役所同行など、手続きに時間がかかった。自分自身も市役所での手続きに慣れていなかったため、困惑することもあった。(2017)

頼まれごとが重なって自分の時間が思うようにとれないことも時期によってあり、就活や授業のことが追いつかなくなりそうなことはありました。慣れない前期は睡眠時間を削ったりしていましたが、後期は忙しい中でもなんとかやりくりできるようになりました。また、自分の英語が足りないなあと思う瞬間も多く、留学前や留学中よりも勉強したように思います。(2017)

病院で留学生が抱える症状を通訳した経験が何回かありました。今まで何かの症状を英語で表現したり、医者との質問を通訳した経験がなかったため、ある留学生が脳震盪を抱えた時に、最初は通訳することが非常に難しかったです。そしてその問題に対して、留学生にあらかじめ症状を聞き取りその症状に関連する医療用語を調べておくことで、なるべくスムーズに通訳ができるように努力しました。(2017)

バイト・就職・RS活動・卒論のすべてを平行してやっていましたが、それをやりこなすための時間管理がもっとも大変でした。対処法としてはスケジュールをしっかりと立てることにしました。特に入寮・退寮の時はRS活動がなおかつ忙しくなるため、十分に企画を立てた上で行動していかないとはいけません。(2018)

RUID 志木

異性の立ち入り禁止のルールや門限等が管理人によってしっかり管理されているため、留学生の寮に対するイメージと、寮のサービスとの間に大きな乖離があるためルールを理解してもらう必要があり、寮長を困らせている場面が多かったから大変だった。(2016)

寮則を正しくみんなに伝えて、守ってもらうことが難しかった。留学生だけでなく、日本人学生もいるので、みんなにとって快適な寮を作るために注意することに苦労した。あまり強くは注意せず理解を求められるようになぜその寮則があるのかを説明するようにした。また、プライベートと仕事を分けることが難しかった。パーソナルな問題や課題にも直面する事もあり、自分が忙しいときに頼られてしまうと、自分のやるべきことができなかつた。相方RSを頼り仕事を分担して手伝ってもらった。(2017)

お酒は苦手だったのですが、留学生はとにかくお酒が大好きなので、最初の方は誘いを断りづらくて悩みました(笑)ですが、「お酒は飲まない!」と自分でルールを決めてからは、自分のプライベートとの両立ができるようになったと思います。(2017)

学業との両立には苦労しました。ここで卒業に向けて、学業をおろそかにしてはいけないというタイミングがいくつもありました。結果、どちらも自らが後悔しないまで思いっきり突き進めて、やりきったらもう片方のほうに舵をとるような形で時間を使いました。(2017)

【食堂にあまり来ない留学生との関わり方】

ミールプランをとっておらず、食堂にもあまり来ない人とは接点を持つこと自体が難しかったです。正直、これといった解決法は見つからなかったのですが、スポーツ大会など、何かしらのイベントを企画してしつこく参加を募ることできっかけを作ることはできるかと思います。

【Depression 状態になる学生の対応】

授業がない期間に部屋にこもりがちになり、落ち込む学生が数名いました。無理に話しかけてもストレスになるので、どの程度の距離感を保つべきか苦慮しました。その人と仲の良い留学生に状況を聞いてそっとしておくくらいしかできることは無いのですが、そうなる前に休み期間に遊びに行く予定など立てられると休み期間も楽しく過ごせると思います。(2018)

RUID 朝霞台

留学生と寮長さんの関係の調整を行うことで苦労しました。寮には守られなければいけないマナーやルールがあります。留学生には自身の文化上対立するものもあるかもしれません。以前に、寮長さんからロビーで留学生が深夜にうるさくしていることを注意されました。留学生にとっては門限後に遊ぶ場所や楽しむ場所がそこしかなくてどうすればいいのかと相談も受けました。そのときは寮長さんに留学生の言い分も説明しましたが、留学生にもほかの学生にも配慮をして、小さいボリュームで楽しむようにと言って、対処しました。このように文化が違うことでたくさんぶつかることもあるとは思いますが、必ず双方の気持ちや事情をくみ取って判断することが大切だと思います。(2016)

日本では普通ではないことを説明し、納得してもらった上で実行してもらうことが困難だと感じました。対処としては説得を続ける、国際センターに協力を求めるという形で解決しました。(2016)

まずは寮生活に慣れることに苦労をしました。入寮するまで2年間は一人暮らしをしていたので、寮生活は新鮮でしたが、自分の時間をつくることに苦労しました。最初は日本人学生と留学生に名前と顔を覚えてもらうために1日のほとんどを食堂で過ごしていました。その後、慣れてくると、自分の時間を確保しながら、留学生・日本人学生と交流する時間を上手につくれるようになっていったと思います。また、私が一番苦労したことは英語力不足でなかなか難しい内容を伝えることができなかつたことです。日常生活程度の英会話はできるようになりましたが、市役所での手続きなどで難しい内容を伝えるときは苦労をしました。その時はペアのRSにお願いしたり、日本語が堪能な留学生に伝えてもらったり、協力してもらうことで乗り切ることができました。(2017)

留学生の体調不良：立教の診療所や寮の近くの病院に付き添うことがあります。病院が休みの日や、夜間早朝は、2ブロック先の朝霞総合病院へ行きます。日本語が分からない留学生の場合は、基本的にすべての通訳を任されるので、ある程度事前に調べておく、状況を聞いて整理しておく等の必要があります。

英語面での力不足・教養不足：医療関係や、行政関係、お金が絡んでくることに関しては、留学生に正確に情報を伝える必要があります。日常会話レベルの英語ではカバーされないことも多々あるので、RSをしながら英語を勉強したり、その都度自分で調べたりする必要が出てくるかと思います。特に、国によって制度や文化が異なるので、当たり前と思って話さず、きちんと説明してあげることも大切です。

繁忙期の相談対応：特に、入寮時・退寮時は、役所関係の手続きや学校関連のことだけでなく、様々な相談、依頼が増えてきます。しかしRSにとっても、新学期や試験期間で忙しいタイミングに重なるので、前もってなるべく私用は入れないようにする等の配慮があると比較的余裕をもって過ごせると思います。自分一人でさばききれないときは、RS同士で分担したり、RAに協力を求めたり、時には留学生自身にある程度自力で頑張ってもらおうよう説得することも必要です。(2017)

◎レジデント・サポーターと学業を両立することは大変でしたか？両立させるためにどのような工夫をしていましたか？

RIR 椎名町

NEW

学業との両立に特に問題はありませんでした。むしろ、彼らとテスト期間と一緒に勉強することでモチベーションが高まったように思いました。(2018)

私はサークルにもはいておらず、時間に余裕があったためあまり学業の時間確保に苦労しませんでした。それでも、テスト期間中は忙しくなると思うので、自己管理が行えるほどの強い意志はあっても良いと思います。(2017)

レジデント・サポーターの仕事に追われるようなことは滅多にありませんでしたが、学業が忙しくなり帰宅が遅くなってしまったり、あまり留学生らと話す時間が取れなかったりと、寮での時間が減ってしまうことがありました。その際メッセージなど自分から連絡をしたり、なるべく早く返事を返したりして、コミュニケーションは欠かさずとるようにしていました。(2016)

立教グローバルハウス

入退寮時は大変な部分もある。時間を決めて対応する、できるところまでは自分でやらせよう、寮長や他のRSに相談など1人で抱え込まないようにした。(2017)

新しい寮ということもあって春学期は特に大変でした。ただ慣れてくるにつれて時間の作り方がわかってきたのと、英文学などの授業については留学生に助けられることも多かったのとで、段々と楽にはなりました。私はサークルに入っていなかったため、サークルなどもがつつりやっている方は更に大変なのかなあと感じます。どうしても時間がないと感じるときは思い切って10時頃などに早く寝て、翌朝5時に起きたりしていました。(2017)

大変ではないと思います。特に工夫したことはありません。(2017)

両立は忙しい時期には大変でした。スケジュールをちゃんと立ててれば大丈夫でした。(2018)

RUID 志木

同時に就職活動も両立していた。タスクが重なった時は物理的にも精神的にも大変だったけれど、大事なと思うポイントは2点。1) ペアのサポーターとの助け合い。2) すきま時間に工夫すれば出来る仕事が多い。1) 自分がやる事で詰まってしまっている時には相方にリーダーシップを取って仕事をしてもらい、逆に時間がある時にどんどん自分から仕事をしてしいた。2) オンライン等、すきま時間を活用すれば回る仕事も実際沢山あった。そういう意味では、オンラインでも留学生から色々な事を聞いてもらえるような存在になる事も大切かと。(2016)

勉強を一緒にしてお互いに質問し合うと、勉強と同時に交流もできた。

学業の時間は確保した上で、交流する時間を作ると勉強の気分転換にもなって両立できた。(2017)

自分の中でルールを決めながら行動していたのでそこまで大変ではありませんでした。

RSは仕事はそこまではっきりと決まっているわけではないので、自分のプライベートとバランスをとりながら気楽に楽しむことが大切だと思います。(2017)

大変でした。勉強をするにあたって、その場でなるべく多くのことを吸収しようと心がけることで、なるべくいろんな作業を効率的にこなしました。その分のできた時間を、さらなる発展的な勉学の時間に割いてもよし、また、交友の時間に割いてもよし、としました。(2017)

【学業との両立状況】

あまり大変だと感じたことはありませんでした。というのも、自分が忙しくなる試験前は留学生達も忙しく、必要な質問が時々あるくらいだったためです。

【両立するための工夫】

1日2時間、RS活動に使うというのを目安として私は考えていました。その時間がとれない日が続いた後は週末に丸一日みんなと出かけるなど、1~2週間の中でバランスをとっていました。

夕食後の交流は楽しいのですが、楽しくなって引き上げ時を見失い、やるべきことができないこともありました。本当に忙しいときは、会話の中でうっすら忙しいアピールをしたり、あまり留学生が来ない時間に一人でサッと夕食をとったりしたこともあります(笑)。(2018)

RUID 朝霞台

勉強ももちろん大切なので私は、食堂で人が集まる夜9時ごろまで大学の図書館で勉強をして帰宅してからは、食堂でご飯を食べながら集まっている人たちと交流するようにしていました。また、土日でもできるだけ自分の活動の時間を取るよう工夫をしていました。(2016)

大学にいる時間と寮にいる時間のメリハリをつけるように努力しました。終わらせる必要がある課題がある際には大学の図書館に残ることで、寮に帰った際には留学生と交流ができるように工夫しました。またダイニングホールにいる際には質問や雑談などを受けることが多いため、課題が残っている際には自室で勉強するように心がけました。(2016)

自分の時間管理を工夫することで学業との両立を意識しました。緊急の用事ではない限り留学生からの質問への回答は夕食後の時間に行ったり、市役所への同行や銀行の口座開設な手続きなどはあらかじめ空いている時間を伝えることで、お互いの都合の良い時間帯を見つける工夫をしました。(2017)

個人的にあまり上手く両立できていなかったかもしれませんが、寮に帰ってきてしまうと、やはり人と話したり、頼まれごとを引き受けたりしてしまうので、どうしても片付けなければいけない課題や勉強は学校や寮外で終わらせるようにすると思います。(2017)

◎レジデント・サポーターは留学生にとってどんな存在でなければならないと思いますか？

RIR 椎名町

NEW

近くで見守る親であり(笑)、友達であり、対等で中立的な存在であるべきだと思います。決められたRSのすべき業務内容をしっかりこなすことも役割の一つですが、事務的に留学生と接するだけでは、留学生が何を必要としているか、どんな気持ちなのか本質的な部分が見えないと思います。一緒に住むからこそ、家族や友達のように付き合い関係を築くことで自分の話(国際センターからの連絡事項や注意喚起など)がより信頼してもらえenと思いますし、困った時にきっとフォローしてもらえenと思います。ですが、どんなに特定の留学生と仲良くなったとしても、他の留学生との関わりをなくしたり、揉め事が起きたら片方の肩を持つなどすることなく、中立的な立場にいるということにも気をつけました。(2018)

普通の友達になるぐらいがちょうどよいと思います。サポーターとして生活面でのサポートは行いますが、ただ留学生を助けるだけの存在であることはどこか距離を感じてしまうと思うので日常的に会話をしたり、遊びに出かけたりすることで信頼関係を築ければ、留学生も気兼ねなく、また分別をもってレジデント・サポーターを頼りにしてくれると思います。(2017)

留学生らが信頼できる存在であることが大事だと思います。サポーターができることは限られているかもしれませんが、問題や悩みを解決しきれなくても、彼らに寄り添って考えることで力になれると思います。また何かあった時に気軽に相談できる身近な存在であることも大事だなと感じました。(2016)

立教グローバルハウス

困ったときに声のかけられる友人。同じ学生同士対等な立場で関わっていくのが大切だと思う。(2017)

(自分がしっかりできていたかはわかりませんが) 信頼できる人でなくてはいけないなあといつも感じていました。病院や複雑な手続きは不安に思っている学生も多いと思うので、ちゃんと相談できるような存在でなくては、と思っていました。市役所や病院関係は日本語でもよくわからないときがあるのできちんと調べておいたりしました。ただ、なんでも受け入れるのではなく思ったことは素直にちゃんと言おうと心がけていました。違うと思ったことや嫌だと思ふことはある程度伝えていました。(2017)

留学生が日本社会で経験する諸問題に対して共感し、問題解決に積極的に取り組む存在でなければならないと思います。市役所での行政手続きや病院への通院など、私たちにとっては日常生活の一部であるかもしれませんが、留学生にとっては対処しなければならない高い壁であるだと思います。それらの問題に直面した場合、彼らの立場に共感し解決に向けて積極的に行動する姿勢が求められます。(2017)

頼れる友達であるべきだと思います。責任感を持たないといけないのですが、留学生たちと仲良くなることも大切です。友達だからこそ信頼され、日常的な問題以外にもちょっといいにくいこととかは質問できると思います。そして留学生たちにどんなことでも相談できる友達がいることの安心感によっていい留学になるのではないかと思います。(2018)

RUID 志木

・寮生からの信頼が厚い存在

ルールを守ってもらったり、いろいろな重要事項をアナウンスしたりする立場なので、それを発信して話を聞いてもらえるような RS 本人の信頼があってこそそういった業務がうまく回っていきと考えていた。具体的には自分がルールをしっかり体现し、個人個人、1on1 での関係性を大切にしていた。

・人として尊敬されるような存在

普段の言動と合わせて、そもそも一人の人間として尊敬される存在であると上記のような信頼も築きやすいと思う。(2016)

・信頼できる人

あまり信用されていない人からは頼られず、逆に交流がしっかりできていて信用されていた人は小さな相談もしてくれると感じた。普段の生活から言ったことに責任をもって行動し、時間通りに行動するなどして信用を築くことが必要だと感じた。

・ 相手の気持ちをしっかりと考えられる人

ちょっとした注意や、なにかアナウンスをする時にはタイミングや言葉遣い等も非常に大切な要素になってくると日々活動する中で感じた。情報発信の仕方によってみんなの反応や返答が変わってくるので、どう発信すれば一番良いかを考えるとスムーズに業務ができた。(2017)

信頼され、安心させる存在であることです。自分でも検討もつかないような質問をされることも多いですが、それを「わからない」で終わらせるのではなく、自分なりに調べたり別の解決策を一緒に考えたりすることが大切だと思います。(2017)

絶対的に信頼される存在でなければならないと思います。留学生が困ったときに、もっとも大事なはその人の不信感、不安感を取り除く、あるいは共感してそばに寄り添うこと。個人的には言葉の力は大きな比率を占めると思います。その人の立場になって同じ目線で話すことができることのほかに、相手の立場を尊重して偏見をもつことなく接することができる姿勢は極めて重要だと思います。(2017)

【信頼して話せる味方】

安心して何でも話せるような信頼を築きたいと考えていました。そのために、まずはいつでも話しかけやすいように見せることを心がけていました。実際に話を聞く時には、フェアであること、秘密や聞いた話は基本的に他の人に話さないこと、ジャッジや批判をせずに聞くことを心がけていました。(2018)

RUID 朝霞台

自然に留学生の問題を解消でき、彼らの潜在的ニーズに気づき応えてられる存在になることが理想なのかなと思います。私自身は留学生から何か相談を受ける際にはできるだけその場で解決するようにしていました。その場では難しくても延ばさずに最短で解決するようにしていました。やはり、自分にとってはそれが重要ではないと感じたとしても彼らにとっては心配なことであったり、頼るだけ大切なことであるので、すぐに解決してあげることでより、信頼を得ることもできます。なかには、自分だけで解決できないこともあるのでそういう時には迷わずに国際センターと連携を取るように心がけることが大切だと思います。(2016)

わたしは、RSは留学生にとって、どんなプライベートなことでも、自身で解決することが困難だと感じた際には相談ができるという存在だと考えています。留学生に深夜に病院に連れて行ってほしいと依頼されたことがあるが、そのようなことでも遠慮なく依頼してもらえる存在であるべきだと感じました。自分が留学生だった際には、どんな些細なことでも耳を傾けてくれる人がいればどんなに良かったのにと感じていました。すべての留学生が日本語に堪能というわけではないので、物事が上手くいかないといったことからストレスも多くかかると思います。その様な状況でRSが助けになって欲しいと考えています。(2016)

明るく元気で困ったことがあったら、どんなことでも相談相手になってくれる存在でいなければならないと思います。そのために普段から明るくあいさつすることや笑顔でいることを意識して、関わりやすい印象を持ってもらうことが大切だと思います。(2017)

・ なにかあった時に、一番近くにいて、一番気軽に相談できる存在。

歳も近く、同じ大学に通う学生という立場から、留学生にとっても話しやすい存在であるはずなので、対等な立場にたって、友達のような感覚で付き合えることが大切だと思います。難しいこともすべて解決できる能力は必要ではないけれど、留学生に対して誠実にあることが求められると思います。ある程度の信頼のも

とに成り立っているポジションだと思うので、留学生と近づきすぎる必要はないけれど、遠すぎてもいけないと思います。なるべく多くの留学生と一緒に過ごす時間が持てると、RS にとっても得られるものは大きいです。最終的に時間がたてば友達と変わらないので、「RS の仕事」というよりは「友達」からのお願いに応えてあげるくらいの感覚になるとと思います。(2017)

◎レジデント・サポーターを務め終えた今、今後の目標はありますか？

RIR 椎名町

NEW

今では世界中にたくさん友達がいるので、彼らを訪れに、一人旅で様々な文化を肌で体験しに行こうと考えています。(笑) 振り返ると、海外の人とこんな濃密に関われる環境は贅沢だったと感じます。海外の人との暮らしは面白い発見があり、彼らの明るさからはいつでも物事に対するモチベーションや元気をもらえたからです。就職先は、海外で海外のお客さんを相手に仕事をするチャンスがあるということなので、そのチャンスが少しでも早く巡ってくるよう、自分と海外が離れすぎないように、これからも海外にいる友達に会ったり、新しく海外の人とのつながりが増えるようにアルバイトやインターンなど色々なことにチャレンジできたらいいなと思っています。(2018)

レジデント・サポーターを終えてすぐに留学をする機会を得ることができましたので、今度は私が留学生として留学生生活を謳歌したいです。椎名町寮で様々なバックグラウンドをもつ学生とコミュニケーションをするなかで、異なる文化圏からの学生を話すうえでのマナーや感覚に触れることができました。今後、留学をするうえでレジデント・サポーターとしての経験は非常に役に立つと思います。(2017)

まずは、次学期からの二学期間の留学です。サポーター活動を通じて、多様なバックグラウンドや文化を持つ留学生らと関わり、異文化への理解が深まったと感じています。ここでの経験を生かしつつ、語学力や専門知識を深めるとともに、できる限りたくさんの機会にチャレンジして自分の可能性を広げていければと思っています。(2016)

立教グローバルハウス

今後はRSの経験を活かして学校のボランティアにも参加したい。(2017)

社会人になるので、この一年の経験を生かせたらなあと思います。来学期もまだ立教で勉強する寮生もいるので、仕事が忙しいとは思いますが学校付近でまた遊びたいなあとも思います。色々なことはいっぱいできる、ということもこの一年で学んだことなので、英文学の勉強もちゃんと続けたいです。(2017)

スペイン語をマスターすることです。RS活動を通じて、もっと多くの人と交流したいと感じました。そして、それを実行するためには英語以外の言語を習得するべきだと思いました。スペイン語は世界において英語の次に多く使われる言語であり、今後、スペイン語をマスターすれば現在よりも多くの人たちと会話ができ、より広い年限関係を築くことができると思います。(2017)

レジデント・サポーターをやってみて、様々な国籍や文化の方々に会えて、新しい言葉もたくさん教えてくれたので、これからも積極的に国際交流をしていきたいと思っています。いつかは寮で作れた友達を会いに行きたいとも思っております。それ以外には、就職して、仕事をするによって何らかの形で社会貢献をしたいと思っています。(2018)

RUID 志木

当初の活動に対して目標も特になく初めてしまった事もあり、それから派生した今後の目標もないので当初に何かしらの目標設定をすれば良かったなと思う。でも RS として活動した一年を振り返ると、仕事をするなかでこうすれば良かったなと思う部分や、結構上手に出来たなと思える部分が色々あった。大きい事から小さい事まで Keep したい点、Consider するべき点を自分の中で整理して、今後活かしていきたいと思うし、それらを活かして RS として活動した一年間は価値のある経験だったと思えるような今後の人生にしたいなと思う。(2016)

自分自身これから留学に行くので、現地ではステレオタイプにとらわれずに様々な考え方を受け入れられるようにし、帰国後はグローバルな環境で働ける職場を探したいと考えています。レジデント・サポーターとしての経験や、築き上げたネットワークを生かして、今後も自分のしたことのないことをたくさん経験できるようにチャンスを掴みたいです。(2017)

今はとりあえず目の前の就活を無事終わらせることが一番の目標です(笑)。実際に面接でも、RS の経験を話す機会はかなり多いです。就活が終わったら旅行して、寮で出会った留学生達に会いに行きたいです！(2017)

交友関係が世界中にできたので、世界中で場所を問わずに仕事をできるようになればと思っています。いつどんなところにも、また旧友を訪ねて楽しい時間を過ごせるために。簡単ではない目標ですが、なにか奮い立つものを感じます。(2017)

留学生との会話を通して、自分の価値観や先入観が良い意味で崩れたように思います。特に就活直後にレジデント・サポーターになったこともあり、自分の将来や働くことについては、留学生から聞いた他国の話と、日本での常識を比べて考えることが多くありました。私は卒業から入社まで半年時間があるので、ワーキングホリデーに行くつもりです。東京で働き始める前に、自分にとって働くとはどういうことなのか、何を大切にどうキャリアを築いていくのか、見つめ直す時間になればと思っています。(2018)

RUID 朝霞台

自分自身はこの仕事を2年間務めさせていただいて、来年には大学も卒業するので、社会に出たらは実際にここで培った問題解決能力であったり、コミュニケーション能力をビジネスのフィールドでも活かしていきたいと考えています。また、海外で働くとか、外国人と一緒にプロジェクトを行ったりできる仕事がしたいと思っています。(2016)

これまでに得た経験を活かして、外国人とのコミュニケーションに積極的に取り組む、さらに一般的なコミュニケーションにとどまるのではなく相手がどのような状況にあってどのような困難に直面しているのか、自分にできることはないかなどを考えながら行動したいと考えています。RS で培ったスキルは簡易的なコミュニケーションにとどまるものではなく、より意義のあるコミュニケーションを可能にするものだと思っています。(2016)

初めての寮生活を通して、集団の中で自分がどのような役割を發揮できるのか知ることができました。また、留学生と交流することで考え方や文化の違いが分かり、国際交流では互いを尊重する姿勢が必要だと実感しました。今後は、レジデント・サポーターでの経験をいかし、多様な価値観を持った人と交流していきたいです。(2017)

とりあえずは学業と一人暮らしをしっかり頑張ることです。RSとしての活動を終えて、時間的にも精神的にも余裕ができたので、学校の勉強や、RSをしていてもっと頑張らないといけないと感じた英語の勉強に力を入れようと思います。また、RSの活動を通して、立教に来る留学生を取り巻く環境について理解が深まり、寮以外でも多くのサポートを必要とすることが分かったので、国際センターや他の団体が募っている留学生支援のボランティアにもより積極的に参加し、RSでの活動を活かしていきたいと思います。RUID朝霞台にも時々お手伝いや交流のために戻ろうと思います。当面の目標は、落ち着いた生活をしつつ、留学生やお世話になったRUID朝霞台のために自分ができるサポートを続けていくことです。(2017)

◎最後に、レジデント・サポーターに応募を考えている方にメッセージを送ってください。

RIR 椎名町

NEW

RSの生活は、決して全てが楽しい訳ではないし、不満に思うことも苦勞もたくさんあります。ですが、RSとして得られる経験や感覚というのは多くの人得られるものではないですし、それも自分自身がしっかり取り組み、不満や苦勞したことも含め、全部が大学生活の中でかけがえのない経験になると思います。私は1年間だけの担当でしたが、短期間で本当に多くの人と関わり、自分自身の留学生活に匹敵するほど充実した1年間でした。英語でコミュニケーションを取ることにかなり自信が持てるようになりましたが、終わった頃にはそれ以上のものが得られます。RSは言葉より気持ちが大事だと思うので、少しでも興味を持った方はぜひチャレンジしてみてください！(2018)

様々な国籍の学生と交流できる大変貴重な機会であることは間違いないので、迷うことなくぜひ挑戦してほしいと思います。また留学生を助けるなかで、自然と自信や対話力が身についてくると思うので、大きく成長できる仕事であることも確かです。私は留学をする前にこの仕事に就いたので、留学をしたことがなかったり、英語にそれほど自信がなかったりする人でも、留学生をサポートしたいという強い心で応募してほしいです。(2017)

この活動を通じて本当にたくさんの学びと経験を得られたと感じています。たくさんの留学生らと近く、深く関わったことはとても良い経験でしたし、何より楽しかったです。貴重な機会なので、少しでも興味があれば是非チャレンジして欲しいです。(2016)

立教グローバルハウス

RSになることで多くのことを学べた。当初は留学生のためだと思ってなんでも手伝い過ぎた部分があり、自分のためにも相手のためにもなっていないことに気がついた。RSだから何かしてあげなければならないのではなく、ひとりの対等な友人として、関わるのが大切だと自分でも実感した。(2017)

大変なことがいっぱいありますがそれ以上に楽しいです。本当にやってよかったなあと思います。是非応募してみてください！ (2017)

「チャレンジしたい」「成長したい」と思う人は迷わず応募してください。今まで経験したことのない経験がいっぱいあります。グローバルハウスは多様なバックグラウンドを持った人たちが共に生活する場所です。自分と異なる価値観を持った人たちに出会い、楽しい時間を過ごすことができます。もちろん、あらゆる問題にも直面します。しかし、それらの問題を一つずつクリアしていくことできっと成長できます。是非、チャレンジしてください。(2017)

大変な時もあるけど、色んなところで成長ができるチャンスです！異文化交流によって世界観が広がり、数多くの友達も作れます！ (2018)

RUID 志木

RSの仕事のやり方は色々、いい意味で自分の裁量で取り組める仕事だと思います。一方で、その分自分の常識や倫理観が出やすい仕事になってくると思います。普段の生活に、ほんの少し周囲への意識をプラスして行動されるとRSの業務も色々円滑になってくるのではないかと思います。自分の事と周囲の事をしっかり考えられて、自信を持って、正しいと思った事をパッとできる人になってみてください。(2016)

RSの業務内容は留学生のサポートがメインですが、業務以外の時間をいかに過ごすかによって自分が得るものが大きく変わると思います。業務以外のプライベートな時間を留学生と過ごしたり、留学生だけでなく日本人学生とも交流することによってより仕事を充実させることができると思うので、業務だけにとらわれず広い視野をもって色んな人と多くの時間を共有できるようにしてほしいと思います。(2017)

滅多に経験できない、本当に貴重な経験だと思います。挑戦して後悔することは絶対にはありません。私は自分が留学していた頃よりも、いろんな国の友達が増えました。応募を考えている方は、英語だけはたくさん勉強してください！ (2017)

何よりも相手の立場になって考えることが一番大切です。私の場合は根っから人付き合いが好きなので、おせっかいになっていることもあったかもしれませんが。(笑) 僕にとって志木で過ごした一年間は、かけがいのないものとなりました。すべてに気構えることなく、肩の力を抜くことも大切です。すべてを一人で解決する必要も、抱え込む必要もありません。また、相手はなによりも留学生である以上に一人一人、おなじ大学生、おなじ人間です。そこには私がレジデンスサポーターだから偉い、日本に住んでいるからものをよく知っている、という理論は当てはまりません。同じ目線で、一人一人と真摯に向き合っていくことができれば、素晴らしい友情を得られるに違いありません。たとえ彼ら留学生との付き合いが刹那的でも、あなたが彼ら一人一人に与えた影響は素晴らしい形であなたの元に還元され、返ってくるはずですよ。きっとこの先長い人生で、いずれまた会えるときも来ると思います。一生もののつながりを、世界中の人と持てることの素晴らしさをお楽しみすることができたら、きっとワクワクすると思います。考え方もやり方も十人十色、それぞれの良さを生かして最高の寮生活を送ってください。(2017)

1年間本当に楽しかったので、特に楽しかった点を2つ書きます。

【留学生との関わり】

まず、新しい知り合いが毎学期一気にできることがとても刺激になります。一学期で平均30人も知り合いが増えることはなかなか無いですし、気が合う(自分と似ている)か否かに関わらず、RSの仕事としてそのほぼ全員と関われるのはとても貴重な経験になると思います。限られた留学期間の中で何かを成し遂げようと頑張る人の姿を見て応援したり、他人の良い所も悪い所も見えて勉強になったり、「こんな風に人と接すると周りを楽しませられるんだな」など発見があったりしました。また、毎日のように顔を合わせて会話していたので、今後も連絡を取り合いたいと思う友人も複数できました。また、留学生に日本を紹介する立場ではありませんが、私達が知らない素敵なお店を留学生がどこからか見つけてきて連れて行ってくれるようなこともあり、新しい経験もできました。留学生がいるからと、お店の方が特別に色々話を聞かせてくれる…というようなこともありました。

【活動自体のやりがい】

決まっている仕事が少ない分、自分で留学生のためになりそうだなと思うことを考えて実行までできるのが楽しかったです。例えば寮のエアコンと給湯器の使い方を説明する紙を作ったり、不用品リサイクルボックスを設置したりと、提案したことが実際に役に立っているのを見て嬉しかったです。私の場合は不便なことを見つけて改善することが多かったですが、新たなイベントなど楽しいことを前例の有無に関わらずどんどん企画したりするのもできたら良いなと思いました。また、学期はじめは特に、30人ほどの留学生全員を寮から立教まで引率したり、提出書類を不備なく用意したり、集団行動を率いることが多いのですが、それも個人的に好きな仕事でした。前日から数人ずつ書類を確認したり、自分なりにした工夫が上手くいって、問題なく手続きが進んだりすることに達成感がありました。普段、英語が話せるからといって英語を使って人の役に立てた経験は特になかったので、留学生の病院に同行して通訳するだけでも喜んでもらえたり、不安を解消する役に立てたことで、自信がつかしました。(2018)

RUID 朝霞台

とにかく、自分からコミュニケーションを取る気持ちがあることが何より大切だと思います。私の場合は留学経験もありませんし、帰国子女でもないのに英語能力がそれほど高いとは思っていません。けれど、寮の中では誰に対しても、そして誰よりも積極的に人と打ち解けようと思って、コミュニケーションは取ってきたつもりです。そういう姿勢があれば、自然と相手も好意的に受け止めてくれますし、分かり合おうとしてくれます。人を好き嫌いしないことができる人ならば、この仕事は本当に楽しむことができると思うので、そんな方にぜひ、レジデント・サポーターになってもらいたいと思います。(2016)

自分が「もし言葉の通じない異国の地に留学したとして、どんな人がRSとしてそばにいてほしいか」を常に考えながら活動を行ってほしいです。部屋にこもっている学生がいる際には“そういう人もいるのか”というて済ませてしまうのではなく、ことあるごとに声をかけてほしいと思います。留学生にとってもRSの仕事をする人にもとても貴重な時間なので精一杯留学生と交流してみてください。(2016)

1 年間とても貴重な経験ができました。レジデント・サポーターをしていなければ合うことがなかった友達がたくさんいます。私自身は留学の経験がなく、英語力に不安を感じていましたが、少しずつ英語にも慣れていきました。本当に困ったときは助けてくれる友人もいて、周りの人に感謝しまくりの 1 年間でした。あっという間の 1 年間で本当に楽しかったです。国際寮での生活は学生時代にしかできない経験だと思います。少しでも興味を持った方はぜひレジデント・サポーターにチャレンジしてみてください。(2017)

RS は一言では寮の留学生のお世話をする係といっても、その業務内容は多岐にわたり、実は意外と忙しく、責任もある役割です。しかし、日々の生活自体は、留学生に囲まれながらのとても楽しいものにできると思うので、ぜひ積極的な活動を心がけてください。留学生のためを思って行動した分だけ、自分のもとに戻ってくるものも大きいと思います。私にとって RUID 朝霞台で過ごした 2 年間、特に RS として過ごした期間は、本当にかげがえのない時間です。自分の助けを必要としている人のために精一杯尽くして感謝されることは、とてもやりがいのあることに感じると思います。活動に限度がないので、大変なことも迷うこともあるかもしれませんが、自分らしく、やれることを一生懸命にやれば大丈夫だと思います。笑顔を絶やさず素敵な寮をつくってください。楽しい寮生活を！(2017)